

# ～高校生の勉強のヒミツ～

令和3年度地域政策研究センター 地域協働研究【ステージ I】採択課題

課題名：発達障害をもつ子どもの学習支援システムの構築

研究代表者：看護学部 講師 佐藤史教

課題提案者：進学塾TomoZemiグループ 鎌田友和

研究メンバー：樋口日出子（看護学部）

技術キーワード：認知機能 発達特性

## ▼研究の概要（背景・目標）

全国的に発達障害をもつ子どもを診ることのできる医師や支援者は不足している。さらに、岩手県は県土が広く、発達障害をもつ子どもに対する支援が十分ではない地域も多い。そのため、発達障害をもつ子どもの学習支援システムの構築が急務である。

## ▼研究の内容（方法・経過）

1. 調査対象：研究代表者が行っている小中高生向けSST（アイーナ事業）に参加している高校生4名
2. 調査内容：学習時間と内容、偏差値、認知機能検査結果、勉強方法
3. 調査期間：2021年8月～12月末

事例番号	工夫している勉強方法	苦手と感じている勉強方法	国語偏差値	数学偏差値	英語偏差値	WISC全検査IQ	WISC言語理解	WISC知覚推理	WISC WM	処理速度
1	繰り返し解く。間違えた問題は どうして間違えたか考える。試験の解き直しをする。	特にない	35.1	45.2	43.1	98	103	98	88	102
2	ひたすら書く	見る、聞く。聞くだけだと抜ける、見るのがまだいい。	36	43.8	31.9	112	117	107	94	106
3	特にない	特にない	49.2	42.9	45.4	103	90	93	123	113
4	自分で調べる。見て、書いて覚える。30～60分と時間を決めて勉強、5分休憩を繰り返す。	長時間集中が難しい。集中力が続かない。	40	40	60	125	123	128	106	103

## ▼研究の成果（結論・考察）

1. 今回の対象者においては、IQと偏差値は対応していなかったことから、認知機能の特性に応じた勉強方法や量が偏差値に影響する可能性がある
2. 自分の認知機能の特性に応じた学習方法を実践している事例も見られた一方、習得していない事例も見られたことから、一人ひとりに適した学習方法を指導していくことが必要である

小中高生向けSSTの  
ポスターと運営補助を  
行っているサークル団体  
HOSSTYのメンバー



岩手県立大学アイーナ事業  
看護学部 精神看護学教育研究分野

## 2022年度 小中高生向けSST

友達や家族との付き合い方など  
人付き合いを学ぶトレーニング！

SSTとは  
ソーシャルスキルトレーニング  
の際で、人付き合いをよりよく  
するためのトレーニングです。  
演習（ロールプレイ）をしながら  
学んでいきます。

説明：アイーナの学習室での対面と遠隔（Zoom）で行います。  
Zoomで参加を希望される場合は1日のバスドをお知らせしますので、  
その旨をお知らせください。

新型コロナウイルスの感染状況によっては全席遠隔での実施に移行する可能性  
があります。新日に必ずホームページで確認してください。

4月9日（土） 5月14日（土） 6月11日（土）  
7月30日（土） 8月27日（土） 9月17日（土）  
10月8日（土） 11月12日（土）  
12月17日（土） 1月21日（土）2月18日（土）  
3月未定

ジュニア（小学生） 9：15～10：15  
ジュニアユース（中学生） 10：30～11：30  
ユース（高校生） 11：45～12：45

場所：アイーナ7階 アイーナキャンパス 学習室  
参加費：無料  
参加資格：学校  
（保護者同意書、同意書、同意書提出済みの場合）

\*参加者を募集されるのは募集の（開始）しているのは本学部の先生（名）許可をもらってから  
お申し込みください。  
\*参加保護者様は必ず質問関係者などが見学に入る場合もあります。あらかじめご了承ください。  
お申し込み、お問い合わせ先  
MAIL: fuminori@wate-pu.ac.jp  
TEL: 019-694-2288  
\*急な変更や中止もありえます。実施の可否は前日必ず下記ホームページにてご確認ください。  
https://fuminori.wate-pu.ac.jp/

## ▼おわりに（まとめ・今後の展開）

1. 今後、対象を増やして分析を行うとともに、協働研究を行った学習塾の塾長と今回得られた情報を共有し、今後塾で活用していく
2. 認知機能の特性に応じた学習方法に関するワークショップを企画していく
3. 調査実施にあたり、ご協力いただいた高校生に感謝申し上げます（謝辞）